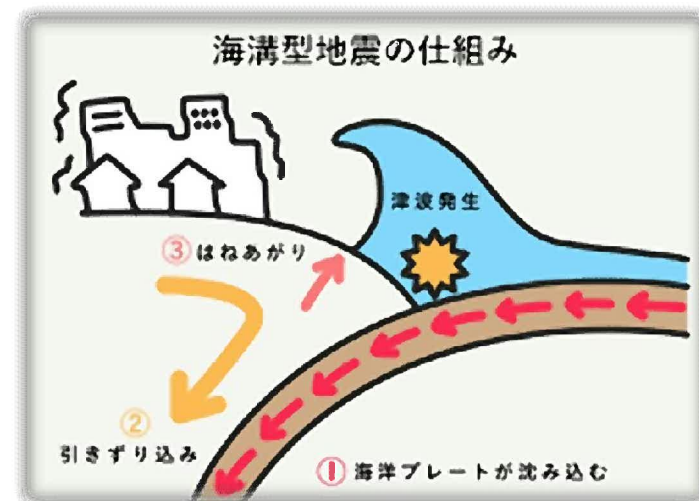


地震の豆知識

📌 地震とは

地震は、地球の地下に存在する「プレート」と呼ばれる岩盤のずれによって発生します。海のプレートに引きずり込まれた陸のプレートの先端が跳ね返って起きる地震を「海溝型地震」、プレートが押し合ってプレート内の岩の層が崩れて起きる地震を「内陸型地震」といいます。大きな揺れの地震では、家屋等の倒壊や土砂崩れ等の土砂災害、また津波が発生する危険が高まります。



📌 日本は地震大国！

世界で起きる地震の10-15%が日本発生

M6.0以上の大地震の20%が日本で発生

揺れを感じる地震は年1,100回以上

日本は4枚のプレートの境界に位置している



震度とマグニチュード

🔊 震度とは

震度は地震による地面の揺れの大きさを表す尺度です。日本では気象庁が10段階の震度で表しています。

震度	揺れ方
震度0	人には感じられない強さの揺れ
震度1	屋内で静かにしている人の中には、気づく人もいる
震度2	屋内で静かにしている人なら気づく揺れ
震度3	屋内にいるほとんどの人が気づく揺れ
震度4	電灯などが大きく揺れ、バランスの悪い置物が倒れる
震度5弱	人が恐怖を感じ、食器や本が倒れたり落ちたりする。固定してない家具が倒れることもある
震度5強	何かにつかまらなると歩けない。食器や本、家具などが倒れる可能性が更に高くなる。弱いブロック塀などは倒れる危険がある
震度6弱	歩くことは困難。固定してない家具は動き倒れる可能性もある。耐震性の低い建物は損壊することがある。
震度6強	這うしかできない。固定してない家具は倒れ、耐震性の低い建物は損壊する。地すべりや地割れが起きることもある
震度7	耐震性の低い建物は倒壊し、耐震性の高い建物でも損壊する可能性がある。地すべりや地割れが起きる可能性が更に高まる

🔊 マグニチュードとは

マグニチュードは、地震そのもののエネルギーの大きさを表す尺度です。マグニチュードが大きくなると、地震のエネルギーが大きくなり、地面の揺れが大きくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍になります。

私たちの生活にとってより重要なのは**震度**

震度5以上の地震が起きる可能性のある地域には、**緊急地震速報**が流れる仕組みになっています。
もし緊急地震速報を受信したら、すぐに身の安全を確保してください。



地震の覚えておくべき5つの特徴

- ☑ 震源の遠方では、最初に小さな縦揺れ、その後に大きな横揺れを感じることが多い。
- ☑ 余震は、数か月、あるいは数十年に渡って続く場合もある。
- ☑ 規模の大きい地震では、周期の長いゆっくりとした大きな揺れが生じやすい。
- ☑ 津波は、海が深いほど速く伝わりやすく、沖合ではジェット機ほどの速さになる。
- ☑ 津波は最初が一番大きいとは限らず、後からくる津波の方が高くなることもある。

建物倒壊や津波から身を守る 地震に備えよう！

事前準備

家具の転倒・落下・移動を事前に防ぐ

事前に家具を固定しておくことは、家庭内で身の安全を守ることにつながります。家具は、L型金具等で壁下地（柱・間柱・胴縁等）にネジで固定し、それだけでは固定が難しい場合は、ポール式器具（つっぱり棒）やマット式器具等を組み合わせて固定しましょう。



発災直後

建物の倒壊や窓ガラスの落下から身を守る

地震の強い揺れによって、住宅地ではブロック塀や石塀等が、オフィス街ではビルの窓ガラスや看板等が倒壊・落下してくる危険があります。2階建て以上の住宅のベランダに置かれているエアコンの室外機等が落下してくることもあるため、外出時に揺れを感じたら、かばん等で頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。



発災直後

火災の原因をなくす

地震発生時は、身の安全を確認した上で、使用中の暖房器具等の火を消す、機器類のスイッチを切る、避難時にブレーカーを遮断するなどして、火災を防ぎましょう。日頃から可燃物や落下物の有無に配慮する、不要な電気機器のプラグは抜くといった習慣を身に付けることも火災防止に役立ちます。



発災直後

津波に注意し、すぐに高台へ逃げる

海岸近辺で強い揺れに襲われたときは、避難の指示や勧告を待たず、安全な高台や避難地をめざしてすぐに避難しましょう。近くに高台がない場合は、3階建て以上の建物をめざし、3階より上に上がります。最初の波のあとにさらに高い波が来襲することもあるため、いったん波が引いても元の場所へ戻らないようにしましょう。

